

通し番号	4882
------	------

分類番号	29-C8-41-01
------	-------------

「丹沢ブナ林再生指針」の作成	
<p>[要約] 神奈川県丹沢山地で衰退が進むブナ林を植生保護柵やシカ捕獲、ブナハバチ防除を組み合わせて効果的・順応的に再生するための考え方や進め方を体系的に整理した技術指針を作成した。各種事業の一体的な実施によるブナ林再生の推進が期待できる。</p>	
自然環境保全センター・ 研究企画部研究連携課	連絡先 046-248-0321

[背景・ねらい]

神奈川県丹沢山地の豊かな自然環境の象徴であるブナ林では、大気汚染（オゾン）、乾燥による水ストレス、葉食昆虫ブナハバチの複合被害でブナの立ち枯れが進行し、ニホンジカによる更新阻害と相まって草地が拡大している（図 1）。このような現状に対して、ブナの立ち枯れに歯止めをかけ、ブナ等樹木の天然更新を促進することで、多様な樹種から構成される鬱蒼（うっそう）としたブナ林を再生していくことが求められている。

そこで、これまでの長期研究の成果をもとに、丹沢大山自然再生の基本的な考え方に即したブナ林再生の目標像とそこに至るまでのロードマップを示すとともに、重点的な対策が必要な地域を選定したうえで、そこでの各種手法を組み合わせた事業の進め方を体系的に整理した「丹沢ブナ林再生指針」（図 2）を作成した。

[成果の内容・特徴]

- 1 ブナハバチ防除によってブナを保全することで林冠ギャップの拡大を防ぎつつ、ブナ等の枯死で生じた林冠ギャップで植生保護柵やシカ捕獲によってシカの採食影響を抑え、天然更新を促進して早期の林冠閉鎖を目指すため、再生に要する時間と各時点で必要となる対策を示す再生ロードマップを整理した（図 3）。
- 2 とくに衰退が進み開空度が高まった林冠ギャップでは周辺の高木性樹木からの散布種子数が減少する（図 4）ことから、これを再生に長い時間を要する大ギャップと位置づけて、まずは更新しやすい低木林を形成しつつ、林縁から徐々に再生するロードマップとした（図 3）。
- 3 衰退リスクに応じた対策の優先度を地図化した再生優先地マップを作成し、とくに西丹沢の檜洞丸において、ブナハバチ対策とギャップへの対策を組み合わせた重点対策が必要なことを明らかにし、平成 29 年度から当センター事業部門と連携し、植生保護柵設置、シカ捕獲およびブナハバチ防除を組み合わせた総合的なブナ林再生事業を実施している（図 5）。

[成果の活用面・留意点]

本指針は事業担当者向けの示方書として、再生の考え方や進め方を、植生保護柵、シカ捕獲、

ブナハバチ防除および各種モニタリグを実施する事業間で共有し、一体的な進捗管理や効果検証による効果的なブナ林再生の推進が期待される。

[具体的データ]

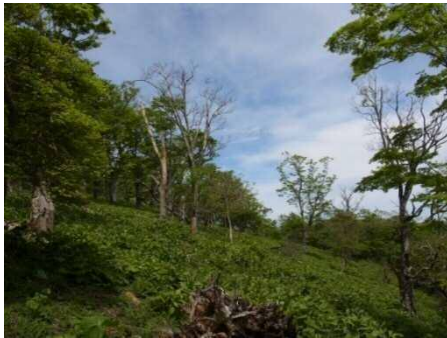


図1 衰退が進むブナ林（檜洞丸）



図2 丹沢ブナ林再生指針

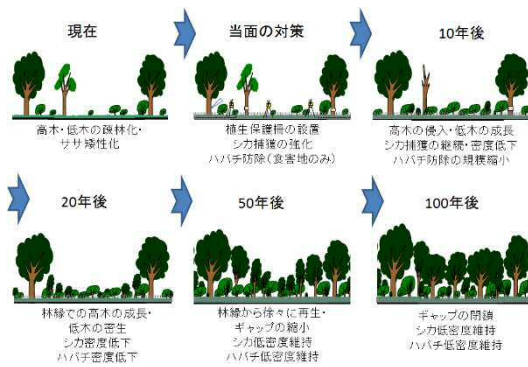


図3 大ギャップの再生ロードマップ

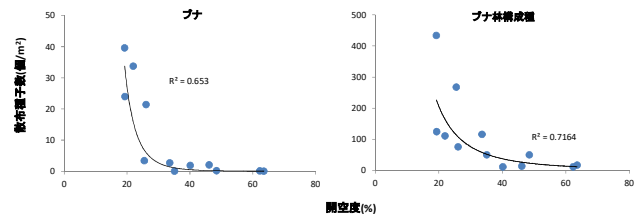


図4 開空度と散布種子数の関係



図5 ブナ林再生事業例

- [資料名] 丹沢ブナ林再生指針
- [研究課題名] ブナ林再生事業の順応的推進手法の開発
- [研究期間] 平成29～33年度
- [研究者担当名] 谷脇 徹
- [協力・分担関係] 自然環境保全センター研究企画部・自然保護公園部